



DIAS_Satellite_ALOS_Pansharpen データセット

1. 識別情報

名称	DIAS_Satellite_ALOS_Pansharpenデータセット
メタデータID	DIAS_Satellite_ALOS_Pansharpen20230727090835-DIAS20221121113753-ja

2. 問合せ先

2.1 データセットに関する問合せ先

名前	濱本 昂
組織名	宇宙航空研究開発機構
住所	日本, 305-8505, 茨城県, つくば市, 千現2-1-1
電話番号	+81 50 3362 7989
ファクシミリ番号	+81 29 868 2961
電子メールアドレス	hamamoto dot ko dot at jaxa dot jp

2.2 プロジェクトに関する問合せ先

2.2.1 データ統合・解析システム

名前	DIAS事務局
組織名	国立研究開発法人海洋研究開発機構
住所	日本, 236-0001, 神奈川県, 横浜市, 金沢区昭和町3173番25
電子メールアドレス	dias-office@diasjp.net

3. ドキュメント作成者

名前	濱本 昂
組織名	宇宙航空研究開発機構
電子メールアドレス	hamamoto dot ko dot at jaxa dot jp

4. データ作成者

名前	濱本 昂
組織名	宇宙航空研究開発機構
電子メールアドレス	hamamoto dot ko dot at jaxa dot jp

5. ドキュメント作成年月日

2023-07-27

6. データ作成年月日

revision : 2016-01-22

7. データセット概要

7.1 序論

CEOP衛星データセットは、衛星オリジナルデータから等緯度経度格子ヘリサンプリングしたグリッドデータである。データ期間はCEOPフェーズ1で定義しているEOP-3、EOP-4期間およびフェーズ2の2007年以降である。出力データの対象領域は35地点（フェーズ1の場合）もしくは52地点（フェーズ2の場合）のリファレンスサイト、5箇所のモンスーン領域および全球の3タイプのスケールがある。使用している衛星データは、MODIS、AMSR-E、SSM/I、PR、TMI、AVNIR2、PALSAR、PRISM等と数多く、データセットのパラメータも大気圏、海洋圏、陸圏、雪氷圏と多岐におよぶ

■衛星

ALOS :

「だいち」は2006年に打ち上げられた地球を観測する人工衛星（陸域観測技術衛星）で、地図作成・地球観測・災害状況の把握・資源探査などでの利用を目的に開発されました。ALOSは、高精度で標高抽出を行うためのパンクロマチック立体視センサ(PRISM)、土地被覆の観測を高精度に行うための高性能可視近赤外放射計2型(AVNIR-2)、および昼夜や天候によらず陸域観測が可能なフェーズドアレイ方式Lバンド合成開口レーダ(PALSAR)の3つの地球観測センサを搭載しています。

■センサ

パンクロマチック立体視センサ (PRISM)

高性能可視近赤外放射計2型 (AVNIR-2)

■プロダクトレベル

L1B2【パンシャープン】(PRISM)/(AVNIR-2)

■分解能

10m

■作成エリア

金目川, 大佐渡, 小佐渡, 那須高原, 小川, 高原山, カヤの平, おたの申す平, 筑波山, 大山沢, 秩父, 御岳濁河, 木曾赤沢, 西丹沢, 富士, 大山文珠越, 芦生, 愛知赤津, 函南, 上賀茂, 半田山, 臥龍山, 春日山, 宮島, 三之公, 対馬龍良山, 和歌山, 粕屋, 市ノ又, 佐田山, 椎葉, 綾, 田野二次林, 田野海岸林, 屋久島照葉樹林, 屋久島スギ林, 奄美, 与那, 小笠原石門, 西表, 北海道北 天塩 CC-LaGサイト, 北海道北 中川, 北海道北 雨龍 M3サイト, 羊ヶ丘, 北 苫小牧, 川渡, 藤荷田山, 草木, 菅平, 神津, 高山 (落葉樹林), 高山 (常緑樹林), 真瀬, 野辺山, 多摩, 剣丸尾, 富士北麓, 袋山, ひなの原, 三瓶山, 桐生, 山城, 粕屋, 嶺北, 阿蘇, Chinese Boreal Forest, Southern Khentii Taiga, Kherlenbayan Ulaan, Dongwu Steppe, Laoshan, Moshiri Birch Forest, Moshiri Mixed Forest, Typical Steppe Xilingol, Desert Steppe Xilingol, Xilinhot Degraded Steppe, "Nakashibetu Station, NLBC", Xilinhot Fenced Steppe, Kushiro Mire Akanuma Tower, Sapporo, Tomakomai, Tomakomai

Experimental Forest ,Shizunai ,”National Livestock Breeding Center, Niikappu Station”,Duolun Steppe ,Duolun Cropland ,Jinzhou ,Panjin Wetland (Natural Reed),Panjin Wetland (Paddy Rice),Kubuqi Forest Plantation,Kubuqi Shrubland ,Appi ,Seolmacheon ,Gwangneung ,Gwangneung Coniferous ,Qinghai ,Cheongmicheon ,Hari ,Nasu ,Naeba Beech Forest,Naeba Beech Forest,NIFTS ,Karuizawa ,Shimotsuma ,”TERC, University of Tsukuba”,Kawagoe ,Fujiyoshida ,Seto ,Ako ,Sakai City Office,Hachihama Experimental Farm,Haenam ,Kahoku ,Kobayashi ,Dongtan 2 ,Dongtan 3 ,Dongtan 1 ,Tibet Grassland Site ,Chi-Lan Mountain Research Site ,Taiwan Huisun Forest Station ,Lien-Hua-Chih ,Kog-Ma ,Mae Moh ,”Diverse land-cover site at Tak, Thailand ”,Mae Klong ,Sakaerat,IRRI Flux Research Site ,Chachoengsao ,Dry Dipterocarp Forest Flux Ratchaburi ,Lambir Hills National Park ,Pasoh ,”Cermat Ceria, Betong ”,Bukit Soeharto,Maludam ,Sibu Station,Palangkaraya ,Sakaerat (Plot1),Sakaerat (Plot2),”KogMa (Plot1,3), MaeKlong (Primary)”,”KogMa (Plot2,4)”,”KogMa (Plot5), MaeKlong (Secondary)”,MaeKlong (Primary)

7.2 トピックカテゴリ (ISO19139)

geoscientificInformation

7.3 時間情報

開始日	2006-05-16
終了日	2011-04-22

7.4 地理的範囲

北限緯度	90
西限経度	-180
東限経度	180
南限緯度	-90

7.5 グリッド

7.6 地理情報を識別する名称

7.7 キーワード

7.7.1 データセットに関連するキーワード

キーワードタイプ	キーワード	シソーラス名
theme	land	No_Dictionary

7.7.2 プロジェクトに関連するキーワード

7.7.2.1 データ統合・解析システム

キーワードタイプ	キーワード	シソーラス名
theme	DIAS > Data Integration and Analysis System	No_Dictionary

7.8 データセットに関するオンライン情報

AVNIR2, PRISM : http://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/index_j.htm

JAXA/ALOS : <http://www.satnavi.jaxa.jp/project/alos/>

7.9 データ周辺情報

7.10 データ配布情報

配布識別名	配布バージョン	配布に関する説明
-------	---------	----------

8. 系譜情報

9. 品質等

10. 利用規約

10.1 データ提供者によるデータ利用規約

10.2 プロジェクトによるデータ利用規約

10.2.1 データ統合・解析システム

データ提供者がデータ利用規約を定めていない場合は、DIASサービス利用規約 (<https://diasjp.net/terms/>) およびDIASプライバシーポリシー (<https://diasjp.net/privacy/>) が適用されます。

DIASサービス利用規約とデータ提供者によるデータ利用規約に齟齬がある場合は、データ提供者によるデータ利用規約が優先して適用されます。

11. ライセンス

12. 謝辞の記載方法

12.1 データ提供者の指定による謝辞の記載方法

12.2 プロジェクトの指定による謝辞の記載方法

12.2.1 データ統合・解析システム

このデータセットを利用して学会発表、論文発表、誌上発表、報告などを行う場合は、以下を参考に謝辞を記載すること。また、データ提供者が示す謝辞の記載方法がある場合は、それも併記すること。

“本研究では、[データ提供者の名称]が提供する[データセットの名称]を利用した。またこのデータセットは、文部科学省の補助事業により開発・運用されているデータ統合解析システム(DIAS)の下で、収集・提供されたものである。”

13. 参考文献